

下山にはザイルを使うため、登る以上時間がかかる。従って剣岳頂上には、12時前後、下山に6時間近くかかるとBCには18時前後となる。これはあくまでこれ以上天候が悪化しないことが条件である。下りは、予想通りかなり厳しく危険がある。池ノ谷が口を開けて待っているかの様である。1P目、ザイルセットして後藤トップ、杉澤が確保。2P目、後藤トップで山田確保、ラスト杉澤。3P目、山田トップ。4P目、杉澤トップ、山田ラスト。若干順序は違うかもしれないが、パーティー全員が力を合わせ、安全第一で下降する。ザイルを使用しているにせよ、滑落すれば「池ノ谷」がおいでおいでをしている。

かなりの緊張した時間が続く。風が割りと弱いので助かる。早月小屋手前1Pでザイルを解く。2人パーティーが登って来た。無理せず下山をすすめる。小屋に着き、山岳警備隊に下山報告。同隊の隊長鍛冶啓一郎氏が昨年3月7日、早月尾根頂上部で表層雪崩に巻き込まれ池ノ谷に落ち、行方不明になった。鍛冶氏は、柳下君遭難の時、格別の御世話をいただいた方である。その時の状況と7月に池

ノ谷で発見されたことを聞いた。

BCに着いた。残念だったが、全員無事を喜ぶべきであろう。明日もし天候が回復すれば再アタックも考える。しかし、天気図では期待は薄い。今夜も後藤は酒を飲まない。自分の分を皆にふるまいた。普段飲まない山田がおかわりを要求するとは、面白いものである。

食料担当の杉澤が明日下山の可能性が強いので、沢山食べるように要求する。レーションA・Bもたっぷり。重い思いをして持ち帰るよりか良いということか。

1月3日(雪)
 ヘタイムV起床3:00 出発5:25
 馬場島9:00 ゲート9:45
 三島24:00

昨夜は風もなく良く寝た。天気はやはり良くない。一抹の期待はあったのだが、雪の降る中ひたすら下る。雪が深くて歩きにくい。モモまでうまると、足を自分で握らないと出れない。馬場島で下山届。車回送して来たコースを帰る。
 反省と今後のために
 ○食料は、出来るかぎり少なく
 ○馬場島まで入りたい。BCは

早月小屋までは行きたい。

○装備は、決めた物は忘れない。スコップは、会の鉄製は時代遅れ、アルミ製の軽いものを。

第19期冬山合宿 (20周年記念冬山山行)



山田 茂

解説 剣岳は私達にとって特別の意味を持つ山であり、北ア冬山総仕上げとしてはふさわしい舞台だった。登らしてもらえなかったのは、柳ちゃんが忘れて欲しくなかったのかもしれない。また行くよ柳ちゃん！

●夜叉神峠薬師岳観音岳地蔵岳夜叉神峠

▽91年12月29日～92年1月1日
 ▽CL毛利哲也(58) 食料山田茂(47) 医療山口美恵子(40) 装備田中裕吉(41) 会計矢部幸雄(33)

標高差 夜叉神登山口～観音岳400m、走行距離 三島～登山口115km

「とりくみ」

会は今年6月で創立20年を迎えるが、記念すべきこの年の冬山を「20周年記念冬山山行」として位置づけた。10年間取り組んだ北ア冬山は一応ピリオドを打ち、再び初心にかえり、次代を背負う初級、中級者を中心に南アで基礎的な冬

山の取組を行った。

12月29日(曇)
 ヘタイムV三島8:00 夜叉神峠登山口11:00 夜叉神峠13:30 (泊)

事務所を予定通り8時に出発できた。御坂、20号線を経て登山口へ。芦安を過ぎたあたりから道路に雪が出てくる。除雪はしてあるが少し雪が残っている。車は4WDなのでノーチエンでぐんぐん登る。
 夜叉神峠登山口には車15台ほど駐車してある。荷物を分けてパッキングして重量を計る。山田26kg 矢部25kg 毛利20kg 田中20kg 山口15kg 今日2時間少し歩いただけだ。

雪がチラチラしている。年末に降った雪が膝下ぐらいある。

小屋ではテント泊の人にはビールを売ってくれないので、田中の持ってきた1本のビールを皆

1月1日(晴)

ヘタイムV起床4:00 出発6:

ン。冬山1年生頑張った田中。料理の得意な山口。ラストCLの大ベテラン毛利。皆こころをこめて